

## ウィーンの今昔

### ～原禮之助さん、邦子さんご夫妻に何う～

ウィーンの昔から今までをよくご存じの原禮之助さん（現UNIDOC親善大使、元セイコーインスツルメント社長）ご夫妻に当時の様子をインタビューしました。

—原さんがウィーンに駐在なさったのはいつのことですか。

**原さん** 1959年のことです。当時のBOAC（\*現在のBA, 英国航空）機で30時間以上かかってウィーンに到着、それから10年間IAEAの職員としてウィーンに滞在しました。当時IAEAはホテルを休業中の現グランドホテルに拠を構えていました。

—当時のウィーンの様子はいかがでしたか。

**原さん** 日本はすでに戦後回復期にありましたが、オーストリアは独立したものの周りを共産圏に囲まれ、ブルゲンランドなどの国境では鉄条網がはられ共産国側の監視塔がものものしい状態でした。

**邦子さん** 野菜などの物資も十分でなく、家の暖房は石炭でしたがとても寒く、最初住んだ13区、次の19区はたいへんな積雪でした。街も暗かったですね。子供の衣服などはイタリアまで買い出しに行きました。

—当時、日本人は何人くらいウィーンに滞在していたのでしょうか。

**原さん** 身近では大使館の方々やIAEAの職員などごく少数でした。音楽の学生として深沢亮子さん（ピアニスト）、大町陽一郎さん（指揮者）、大賀典雄さん（バリトン歌手、元ソニー会長）など後に世界的に有名になられる方々が勉強していらっしゃいました。当時はまだ日本人はめずらしくて眺められたような時代です。

—日本人と友好を深めたオーストリア人の方で印象に残るのはどのような方々ですか？

**原さん** 後に国務大臣になられたチルク氏とその奥様のダグマコラーさんはたいへんな親日家で日本との間を取り持たれて功績のあった方です。チルク氏は差別をなくそうと運動されて、テロで右手を失っています。その他、歴代の駐日オーストリア大使、例えばトーマス大使、ワイディングー大使、シュバイツグート大使（後にEU大使）などの方々があげられます。



原禮之助さん(左)と妻邦子さん

—ウィーンでは日本人はどのような評価をされていたのでしょうか。

**原さん** 日本人の勤勉さや真面目さなどは高く評価されていましたね。

—この約50年間のウィーンの変化はどのようにご覧になりますか。

**原さん** 何といっても鉄のカーテンがなくなったことです。1968年のソ連のチェコ侵攻ではブラティスラバも占領され、ドナウの向こう岸にソ連戦車がずらりと並んでいました。今、共産圏の脅威がなくなり自由に行き来できるというのは何より大きな変化です。（\*チェコ→当時のチェコスロバキア）

—ではウイーンにおける日本や日本人の変化はどのようにご覧になりますか。

**原さん** 日本の製品やサービスの質の良さはどんどん評価されてきましたね。またグランドホテルの変遷を見ているとまさに世界資本の変化を見ているようです。戦後はホテルを休業中でI A E Aの全オフィスがあり、その後はバブルの頃日本資本の全日空がホテルを経営し、バブル崩壊で全日空が手放した後はアラブ資本が経営しています。まさにグランドホテルは世界資本の推移の象徴のようです。

—日本で「ドナウの会」という会があると聞きましたが、どのような会でしょうか。

**邦子さん** 以前ウイーンに駐在してすでに帰国された女性の方々の会で、駐在した時代に関係なくウイーンに縁のある方々です。年に2回ほど集まっています。

—今後の日本との関係をどうご覧になりますか。

**原さん** 現在はビジネスがグローバル化していて日本とオーストリアというよりもE Uと日本という関係で考えていくべきでしょう。それにつけてもスイス、オーストリアは政治的、地理的にE Uの中心と見てもいいでしょう。政治的には両国とも中立ですし、特にオーストリアは旧東欧の情勢をよく見ることのできる立場にあります。

—ウイーンのこれからまたウイーンで過ごされた日々をどうお考えになりますか。

**原さん** ウイーンは古い伝統的な芸術を大切にしていると同時に、様々な人種がウイーンには住んでいて、新しい芸術が将来生まれる可能性もある。文化の多様性のある国として日本もお付き合いしていくことができるのではないのでしょうか。

**邦子さん** ウイーンに駐在した10年間は言葉に表せない人生の一部でした。人間同士の深いつながりをもった大切な日々だったと感じています。

<インタビューを終えて>

半世紀近く前から10年間ウイーンに滞在され、その後も年に2～3回はウイーンを訪問される原さんご夫妻には大変貴重なお話をいただきました。特に駐在されていた頃は東西冷戦の緊張を強く受けていた時期でもあり、周囲の共産圏が崩れたことによってもたらした変化は大きいものでした。また、オーストリアの他の町とウイーンは違うというご指摘もありました。ハプスブルグ→共和国→ナチス統合→4ヶ国の占領→独立（国際都市へ）という歴史にもまれたウイーンは独自の性格を持っているのでしょうか。まだまだ矍鑠たるご夫妻には今後何度でもウイーンを訪問され変化を見続けていただきたいと思います。（2008年10月原さんご夫妻がウイーンに滞在中、お話の中にあるチルク氏の訃報を聞かれたと連絡をいただきました。）【浦元 三起子】

<原 禮之助>

1925年生まれ。東京大学理学部卒、同大学院卒業。理学博士。

1959～1969年I A E A研究員、研究副部長として勤務（在ウイーン）。1970年、セイコーインスツルメンツ（株）取締役となる。1987年～1993年、同社取締役社長。1993年～1997年、同社取締役副会長。1997年勲三等旭日中綬賞。2003年UN I D O永年功労賞、現親善大使。